創建清眞寺碑

桑原隲藏

青空文庫

創建清眞寺碑は支那の陝西省西安府城學習巷の清眞寺内に在る。支那に於ける回教の傳來を記した最古の石碑として、回教徒の間には非常に珍重されて居る。碑文に據ると唐の玄宗の天寶元年（西曆七四二）の建設であるから、かの徳宗の建中二年（西曆七八一）に建てられた大秦景教流行中國碑よりも約四十年前のものである。

西曆千八百六十六年に露國の Palladius 僧正が始めてこの碑を學界に紹介したが、餘り世間一般の注意を惹くに至らなかつた。西洋の學者で實地に就いてこの碑を親覩した人もなく、且は支那の金石書類にこの碑を著録してないから、碑その物の存在に就いてすら疑惑を挟む者も尠くなかつたが、一昨年の末に出版された Broomhall 氏の『支那のイスラム教』中に初めてこの碑の照相を掲げてから、漸くこの疑惑の雲は霽れて來た。

吾輩は去る明治四十年の秋、西安に遠征を試みたる際に、この清眞寺を訪ふたが、時黄昏に迫つて、創建清眞寺碑の所在を確め得ずに歸途に就いた。併しその後幸に在西安鈴木教習の好意によつて、碑の拓本を手にすることを得た（本文は後に掲載されてある）。

一體今日支那全國に於ける回教徒の數は甚だ多い。最近の Broomhall 氏のやや精密な調査には、その數を四百七十三萬（最少數）乃至九百八十二萬人（最多數）と算して居る（1）。支那回教の研究の開拓者として盛名ある Thiersant 氏はこれを二千萬乃至二千百萬人と算して居る（2）。兩者の間に隨分懸隔はあるが、國民の總數すら確實に調査されて居らぬ支那では蓋し免れ難い結果である。たとひ具體の數は知り得ずとも、吾が輩の陝西直隷方面旅行の實驗によつても、支那に於ける回教徒の數の意外に多大なることだけは保證できる。

かく多數を占むる回教徒の政治上に於ける勢力は侮るべからざるものがある。明以前はしばらく措き、清朝に入つて乾隆帝が回部の戡定に手を着けてから、嘉慶、道光、咸豐、同治、光緒の五代にかけて、或は雲南方面に於て、或は陝甘新疆方面に於て、回教徒騒亂の警報殆ど絶間がなかつた。中華民國の成立した今日でも、或は陝西巡撫の升允が回教徒と結託して保皇を唱へるとか、南路の回教徒が新疆都督の袁鴻祐を殺害して獨立を圖るとか、著々暗中飛躍を試みて大總統袁世凱の心肝を寒からしめて居る。勿論過ぐる三百年の間に回教徒は清朝の爲に尠からざる打撃を受けて居る。併し彼等は決して之によつて挫折せぬ。彼等には洋々たる未來がある。熱烈なる彼等は著々支那人の感化に成功し、遂に全國を擧げて回教徒たらしめずんば止まざる概がある。彼等はこの時期の必ず到來すべきことを確信して居る（3）。

此の如く支那の過去現在將來に對して重大なる關係を有し又は有すべき回教のことは未だ十分に研究されて居らぬ。第一に回教が支那に傳來した時代すら甚だ明瞭を缺いて居る。支那の正史はこの問題に對しては殆ど何等の材料をも供給せぬ。支那で出來た回教文學のうちで『回々原來』とか『清眞釋疑補輯』とかは可なり支那に於ける回教の歷史を説いて居るが附會假託大半に居り、毫も信頼するに足らぬ。

一般の回教徒は支那に於ける回教の傳來は隋唐二代の間に在りと信じて廣東の遺蹟と西安の古碑とをその證據として居る。廣東の遺蹟といふは主として廣州府城内の光塔街にある懷聖寺と、廣州府城の北郊一マイル足らずの桂華岡にある斡葛思（〔Wakkaˆs〕）の墓、

即ち俗に香墳又は響墳として知られて居るそれである。此等廣東の遺蹟は場所柄だけに早く廣く世間一般に知られて居る。我が國では東京工科大學の伊東博士が一昨年ここの遺蹟を探訪した。

西安の古碑といふのは即ち斯に紹介する創建清眞寺碑であるが、是は已に述べたるが如く廣東の遺蹟ほど廣く知られて居らぬ。碑は高さ五尺、幅二尺三寸強、その全文は次の如くである。

創建清眞寺碑記

賜進士及第戸部員外郎兼侍御史王※撰篆

竊聞俟百世而不惑者道也。曠百世而相感者心也。惟聖人心一而道同。斯百世相感而不惑。是故四海之内皆有聖人出。所謂聖人者此心此道同也。西域聖人＊謨默德生孔子之後。居＊＊天方之國。其去中國聖人之世之地不知其幾也。譯語矛盾而道合符節者何也。其心一故道同也。昔人有言。千聖一心。萬古一理。信矣。但世遠人亡。經書猶存。得於傳聞者而知西域聖人生而神靈。知天地化生之理。通幽明死生之説。如沐浴以潔身。如寡慾以養心。如齋戒以忍性。如去惡遷善而爲修己之要。如至誠不欺爲感物之本。婚姻則爲之相助。死喪則爲之相送。以至大而綱常倫理。小而起居食息之類。罔不立道。罔不立教。罔不畏天也。節目雖繁。約之以會其全。大率以化生萬物之天爲主。事天之道。可以一言而盡。不越乎吾心之敬而已矣。殆與堯之欽若昊天。湯之聖敬日躋。文之昭事上帝。孔之獲罪於天無所禱此其相同之大略也。所謂百世相感而不惑者足徵矣。聖道雖同。但行於西域而中國未聞焉。及＊＊＊隋開皇中。其教遂入於中華。流衍散漫於天下。至於我朝。＊＊＊＊天寶陛下。因西域聖人之道有同於中國聖人之道。而立教本於正。遂命

工部督工官羅天爵。董理匠役。創建其寺以處其衆。而主其教者。擺都而的也。其人頗通經書。蓋將統領群衆奉崇聖教。隨時禮拜以敬天而祝延

聖壽之有地矣。是工起於元年三月吉日。成於本年八月二十日。的等恐其世遠

遺忘無所考證。遂立碑爲記以載其事焉。時

天寶元年歲次壬午仲秋吉日立。

この碑記は一讀して疑惑を挟むべき點が尠くない。已に〔Deve'ria, Broomhall〕の諸氏もこの碑の信憑し難きことを公言して居る。ただ彼等は説いて精ならず、論じて盡さざる憾があるから、吾が輩はこの碑の斷じて唐代のものにあらざる四五の確證を擧げて、幾分前賢の缺陷を補足したいと思ふ。

＊　謨罕默德

新舊の『唐書』を始め、杜佑の『通典』、賈耽の『四夷述』等すべて回教の教祖マホメッドを稱するに一律に摩訶末の字面を用ゐる。宋の趙汝适の『諸蕃志』には麻霞勿とあるが、この勿は末と等しくメッドの音を表はすので、末と勿との通用の例は可なりに多い。唐宋時代を通じての特色はマホメッドを譯するに三漢字を用ゐ、最後の末又は勿の一字でメッドの音を表はすのである。明時代に至るとマホメッドを譯するに四漢字を用ゐ、その最後の二字でメッドの音を表はすのが多い。この區別も可なり判然して居る。『明史』『明一統志』は謨罕驀德と稱し、

明の馬沙亦黒の譯せし『天文經』の序及び『四譯館考』には穆罕默德と書いてある。今この碑記に摩訶末と稱せずして、謨罕默德の四字名を用ゐてあるのは、やがて碑其物の唐時代の作にあらざる一傍證を供するものといはねばならぬ。

＊＊　天方

一體唐時代に於いて支那ではアラビアを指して大食（Taji）と呼んだ。『舊唐書』『新唐書』『通典』『唐會要』等皆この文字を用ゐて居る。稀には多氏（『大唐求法高僧傳』）、大※（『慧超傳』）、大石（『册府元龜』）等の字面を用ゐた場合もある。降つて宋時代に至つても亦同樣で、『宋史』を始め『諸蕃志』『嶺外代答』等いづれも大食と稱して居る。次の元時代になると、依然大食の字も使用されるが、同時にアラビアに對する天堂（『島夷志略』）又は天房（『西使記』及び『元史』郭侃傳）等の新名稱が現はれて來た。併しまだ天方といふ字面を用ゐたものはない。天方の字面は概して明以後に限るやうである。『明史』『明一統志』を始め『瀛涯勝覽』『星槎勝覽』等一概に天方と稱して、殆ど自餘の名稱を使用せぬ。この區劃は極めて判然して居る。然るに今この碑にアラビアを指すに唐代普通の大食の字面を用ゐずして、却つて天方と稱するより推せば、この碑は唐代のものにあらずして、明以後の建設に係ると斷ぜねばならぬ。

＊＊＊　隋開皇中

隋の文帝の開皇は西曆五百八十一年乃至六百年に當り、マホメッドの始めて回教を唱へたのは西曆六百十年頃であるから、この碑の記事に據ると、マホメッドが未だ新教を唱へざる二三十年前に於て、その教が已に支那に傳來したこととなるがこは勿論不可能のことである。かかる不都合を生じたのは、やがてこの碑が後世の假託で、決して唐代の建立にあらざることを證明するのである。

支那の正史によると、大食人の始めて來朝したのは、唐の高宗の時代に在る。『舊唐書』大食傳に、

永徽二年（西曆六五一）始遣使朝貢。（中略）自云有國已三十四年、歷三主矣。

とあるが、高宗本紀を驗すると、大食の使者は永徽二年の八月乙丑に朝貢して居るから、正しくは回曆三十一年に當つて三十四年でない。これは從來東洋學者の解釋に困難せし一問題であるが、吾が輩はこの頃『册府元龜』『唐會要』等を熟讀して、元來は大食の使者が永徽二年と六年との兩度に來朝して、有國已三十四年とは永徽六年來朝の使者の言葉であるのを、『舊唐書』の作者が誤つてこれを永徽二年に繫げたことを發見した。永徽六年（西曆六五五）なれば正しく回曆の三十四年である。

次に唐の玄宗の開元七年二月に康國即ちサマルカンド國王が大食の將、異密屈底波（Emir Kutaiba）の侵略を訴へて、唐の援兵を請うた時の言に、

大食只合一百年強盛。今年合滿。如有漢兵來此。臣等必是破得大食（『册府元龜』卷九百九十九）。

とあるが、開元七年（西曆七一九）は正しく回曆の一百年に當つて居る。

以上の二例によつても明白なる如く、當時の實録に本づける記事であつたら、回曆によつても、支那曆によつても、彼此の年代符節を

合するが如く、斷じて不都合を生ずる筈がない。若し兩者の間に何か不都合を生ずることがあつたら、後人が回曆と支那曆との相違を忘れて前代に逆算した結果と見るのが至當である。

元來回教徒の普通に使用する回曆は純太陰曆で、大（三十日）小（二十九日）の月各六、併せて十二月を一年として閏月を置かずに、ただ約三年目毎に一日の閏日を置くのである。故にその一年は普通三百五十四日、閏年でも三百五十五日に過ぎぬ。之を約三年毎に閏月を置く支那の太陰曆に比すると、三年毎に約一月、百年毎に約三年の相違を生ずる譯である。

この回曆と支那曆との相違を忘れて、彼の年數を直に此に換算すると、必ず事實上の不都合を生ずるのである。この創建清眞寺碑記が果して唐の天寶元年の建設とすると、天寶元年は回曆の百二十四年に當るが故にたとひ當時誤つて彼此の年數を換算しても僅かに三年乃至四年の相違を生ずるのみで、決して十年二十年といふ年代の相違を生ずる筈がない。

〔Deve'ria〕氏はその著『支那に於ける回教の起源』中に一の想像説を述べて居る（4）。即ち元の至正十年（西曆一三五〇）に支那の回教徒が廣東に重建懷聖寺記の碑を建てた時、丁度この年は回曆の七百五十一年に當つて居るから（これはその碑のアラビア文にも明記してある）、彼等は支那とアラビアの曆の相違を覺らずに、至正十年より七百五十年前に當る隋の開皇二十年（西曆六〇〇）を回曆の紀元と誤算した。之が恐くば今日まで支那の回教徒一般に誤信されて居る隋の開皇年間回教東漸説の起源となつたのであらうといふのである。

〔Deve'ria〕氏の説は如何にも巧智である，從つて一般に歡迎されて居る。しかし至正十年に支那回教徒が支那曆と回曆との換算をしたといふ確たる證據は見當らぬ。要するにその説は一の假定説に過ぎぬ。しかのみならず清の劉智の『至正實録』を始め、支那に於ける回教の書類には一般に隋の開皇十九年（西曆五九九）を回曆の紀元に當てて居る。〔Deve'ria〕氏の説の必然の結果である開皇二十年を回曆紀元に當てて居るものは見當らぬ。巧智な〔Deve'ria〕氏の説には蔽ふべからざる弱點缺陷を有して居る。吾が輩はこの點に就いて久しく頭を惱ましたが、偶然『明史』の中からこの難問を解釋すべき鍵鑰を得た。

明の太祖が燕京を陷れてから元の太史院（天文臺）に奉仕して居つた回々の曆官をその儘任用して、曆日のことを掌らしめた。かの『華夷譯語』『元朝祕史』等の翻譯に特別の關係あつた翰林編修馬沙亦黒その人も實は當時太祖に任用された回教徒である。『明史』の曆志七に次の如き記事がある。

回回曆法（中略）其曆元用隋開皇己未（十九年西曆五九九）。即其建國之年也。洪武初得其書於元都。十五年（西曆一三八二）秋太祖謂。西域推測天象最精。其五星緯度又中國所無。命翰林李※、呉伯宗同回回大師馬沙亦黒等譯其書。其法（中略）以三百五十四日爲一周。月有閏日。凡三十年月閏十一日。（下略）積年起西域阿喇必年（アラビ）隋開皇己未下至洪武甲子（十七年西曆一三八四）七百八十六年。

これ明の太祖の時、その洪武十七年即ち回曆の七百八十六年を起點として支那曆と回曆との換算を試み、洪武十七年より七百八十五年に當る隋の開皇十九年を回曆の紀元と定めた明證である。清の梅文鼎の『曆學疑問』に（5）、

回回曆書以隋開皇己未爲元。謂之阿喇必年。然以法求之。實用洪武甲子爲元。而托之於開皇己未耳。

とあるのは吾が輩の所見の正確なることを保證するものである。隋の開皇十九年は西曆五百九十九年で、マホメッドのメッカ出奔の年即ち西曆六百二十二年に對比すると正しく二十三年の相違がある。上已に述べたが如く回曆は支那曆に比して百年毎に約三年の相違を生ずる故、二十三年の相違を生ずるには、少くも回曆で七百七十年の年月を經過せねばならぬ。この道理から推しても隋の開皇十九年を回曆の紀元年に充てたのは、元時代にはじまらずして、回曆の七百七十年以後に當れる明の初世に起つたものと斷定すべきである。

隋の開皇十九年を回曆の紀元とするとマホメッドの新教創唱も亦從つて隋の開皇六年頃に繰り上がる譯である。此等の事情に加へて、『舊唐書』の大食傳に隋開皇中云々の文句がある。この文句は唐の賈耽の『四夷述』に本づき、もと隋の開皇年代に於ける大食國の有樣を敍述したもので、毫も支那と大食との交通に關係ないのであるが、之を誤解若くば牽強して、隋の開皇年間より隋と大食との交通開け、回教も亦この時より支那に傳來したといふ説の行はるるに至つたのは明以後のことである。

『明史』卷三百三十二及び『明一統志』卷九十二は、

隋開皇中、其國撒哈八撒阿的斡葛思（〔Sahabi^ Saadi Wakkas〕）始傳其教入中國。

と明記しある。明代以後の書で回教の東漸を説くものは必ず隋の開皇を起源といたし、明以前の書には一も隋の開皇中の傳教を記するものがない。この間判然として鴻溝を劃して居る。今この碑文に「及隋開皇中其教遂入中華」の句があるが、是に由つても明代の假託たるを證明することが出來る。

＊＊＊＊　天寶陛下

『唐會要』卷一に據ると玄宗の先天二年（西曆七一三）の十一月に群臣始めて開元神武皇帝の尊號を上り、開元二十七年（西曆七三九）に尊號を加へて開元聖文神武皇帝といひ、天寶元年二月更に尊號を加へて開元天寶聖文神武皇帝といった。『新唐書』玄宗本紀に、

天寶元年二月丁亥、群臣上尊號、曰開元天寶聖文神武皇帝。

とあるのが即ち是である。故に天寶以後の碑に玄宗の尊號を稱する場合には、皆開元天寶聖文神武皇帝と稱して居る。天寶元年七月の元元靈應頌（『金石粹編』卷八十六）、天寶三載二月の嵩陽觀聖德感應頌（『金石粹編』卷八十六）の如き皆その例である。今この碑單に天寶陛下と稱するは當時の用例に協はない。後世の假託たる一の證據と見るべきである。

尚ほこの碑に就いて疑惑を挾むべき點が隨分多い。（一）宋の宋敏求の『長安志』に唐代長安に在つたネストル教の波斯胡寺、ゾロアスター教の　祠まで一々列擧してあるに拘らず清眞寺の記事がない。（二）碑文の撰者王※が果して進士及第者であるかは頗る疑問であるが、たとひ彼を進士及第者としても唐時代に賜進士及第と稱したかは一層の疑問である。（三）碑の建てられた天寶元年はマホメッドの死を距ること約百十年に過ぎぬに、碑文に世遠人亡とあるのは頗る妥當を缺いて居る。その他文體から論じても、書體から論じても彼是とその弱點を指摘し得るが、上已に論述した所に據つて、

この碑の後世の僞作たるべき鐵案山の如しであるから、この上に蛇足を添へることは見合すのである。

陝西省西安府城學習巷の清眞寺に別に明の嘉靖五年（西暦一五二六）の勅賜重修清眞寺碑記があつて、次の如き記事を載せて居る。

考其寺之顚末。其初創於唐之天寶元年三月。工部差督工官羅天爵監造。

これは明かに創建清眞寺碑記に據つたもので、即ち創建清眞寺碑記は明の洪武十八年乃至嘉靖五年の間に建設されたものと斷定すべきである。

吾が輩は已に主題の創建清眞寺碑記を論評し盡したから、序に之に關聯して支那に於ける回教の傳來に就いて一言せようと思ふ。回教の傳來に就いては回教徒の來朝と回教徒の布教とは區別せねばならぬ。

回教徒の來朝は唐の高宗の永徽二年（西暦六五一）以來白衣大食（オムメヤ王家）黒衣大食（アバァス王家）の使者が屢　長安に來貢した外、肅宗の時、安史の亂に、大食より援兵が來て、東西の二京恢復に預つて力あつた。德宗の時、大食は吐蕃と同盟して四川雲南の方面に侵入し、多く俘虜となつた。代宗德宗時代にかけて、吐蕃の亂で、河隴の道雍がり、西域の使者の長安に滯在するもの約四千人、皆歸國せずに妻子を有して唐に留つた。かかる事實があるから當時回教徒の支那に歸化安居したものが隨分多かつたに相違ない。

殊に海路の交通となると一層盛大で、當時いはゆる南海船又は昆崙船に搭乘して、遠くペルシア灣より嶺南に來た。廣府（アラブ人の Khanfou）は世界の一大商港で、當時の實録『支那印度物語』に據ると、唐末に廣府滯在の外國人すべて十二萬人、その多數は勿論回教徒で、彼等は斯に寺院を構へ、自由に祈祷禮拜を行うたのである。

かく唐代に多數の回教徒が支那に或は居留し或は歸化し、その或る者は固有の宗教を崇奉したけれども、決して之を支那人間に傳播せんと試むる者なく從つて當時の宗教界には何等の影響も及ぼさなかつた様である。『支那印度物語』にも明かに一支那人も回教に歸依する者がないと記載してある（6）。回教徒はただ信仰の自由を享けたのみで、布教の自由を有せなんだか若くば之れを有せうと試みなんだ（7）。さればこそ唐の代宗の大暦四年（西暦七六九）の「唐鄂州永興縣重巖寺碑銘」に、

國朝沿近古而有加焉。亦容雜夷而來者。有摩尼焉、大秦（ネストル教）焉、神焉。合天下三夷寺。不足當吾釋寺一小邑之數也（『全唐文』卷七百二十七）。

とあつて、摩尼、景教、　教の寺を指して三夷寺と呼ぶも、獨り回教は預らぬ。唐の武宗は道教信者で、道教以外の諸宗教を禁制いたし、會昌三年（西暦八四三）から五年（西暦八四五）にかけて、末尼、大秦穆護、　僧等を還俗せしめたが、同じく回教は加つて居らぬ。景教や、摩尼教には唐代から早く漢譯經典があつたが回教にはそれがない。宋の志磐の『佛祖統記』には　教、大秦、末尼の三者を掲げてあるが、是亦回教を記してない。畢竟これは回教が當時の支那人の信仰と沒交渉で、道教家、佛教家の眼中にその存在を認められて居なかつた證據である。回教が宗教として支那でその存在を認めらるるに至つたのは元以後のことである。

元が朔漠から起つて宇内を昆一してから、西域の回教徒が續々支

那内地に移住した。『至元辨僞録』巻三に蒙古時代に儒、道、耶、回の四教師が各自に教勢擴張に力めた有様を敍して、

今先生（道家）言。道門最高。秀才人（儒家）言。儒門第一。迭屑 Tersa 人（耶蘇教徒）奉彌失訶（Messiah）言得生天。達失蠻（Danishmand 回教徒）叫空謝天賜與。

とある。元時代に回教徒が廣く支那内地に散漫して居つたことは、東西の史料によつて容易に證明される。降つて明代になると回教徒の内地移住愈　多きを加へた。併し元代明初にかけて支那回教徒の數の増加したのは、多く彼等の歸化若くは移住による結果で、餘り支那人の信仰と關係がなかつた様に思はれる。回教徒が直接若くは間接に支那人の感化に力を用ゐるに至つたのは恐くは明の中世以後であらう。Broomhall 氏の『支那のイスラム教』、〔Vissie're〕氏の『支那回教の研究』に漢文の回教經典を網羅してあるが、何れも清代の作で、明代のものは幾んど稀である。明の王岱輿の『正教眞詮』が最古の漢譯經典として、『清眞釋義補輯』巻下にも特に「爲清眞教中第一漢譯本也」と注意してある。漢譯の經典を必要とするに至つた一つの原因は、支那人間に布教する便宜を圖るにあつたと見なければならぬ。（明治四十五年六月十四日稿）

参照

（1）Broomhall ; Islam in China. p. 215.
（2）Thiersant ; Le Mahomet'isme en Chine. p. 46.
（3）Hartmann ; Der Islamische Orient. II, p. 1.
（4）〔Deve'ria ; Origine de L'Islamisme en Chine. p. 318.〕
（5）『策學備纂』天算五。
（6）Reinaud ; Relation des Voyages & C. p. 58.
（7）Renaudot ; An Inquiry into the Time when the Mohammedans first entered into China. pp. 126, 134.

（明治四十五年七月『藝文』第三年第七號所載）

青空文庫情報

底本：「桑原隲藏全集　第二卷」岩波書店
　　1968（昭和43）年3月13日発行
初出：「藝文　第三年第七號」
　　1912（明治45）年7月
入力：はまなかひとし
校正：染川隆俊
2012年2月12日作成
青空文庫作成ファイル：
このファイルは、インターネットの図書館、青空文庫（http://www.aozora.gr.jp/）で作られました。入力、校正、制作にあたったのは、ボランティアの皆さんです。

創建清眞寺碑

桑原隲藏

2026年10月1日　第二版

奥　付

発行　　青空文庫

URL　　http://www.aozora.gr.jp/
E-Mail　　info@aozora.gr.jp

作成　　青空ヘルパー　　赤鬼@BFSU
URL　　https://aohelp.club/
BiliBili　　https://space.bilibili.com/10060483

Special Thanks
　青空文庫　威沙

青空文庫を全デバイスで楽しめる青空ヘルパー http://aohelp.club/
※この本の作成には文庫本作成ツール『威沙』を使用しています。
http://tokimi.sylphid.jp/